

社会福祉法人葵会 2023年度評価書・・・自己評価(職員) 関係者評価者(法人役員・評議員・小学校等)

A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成 D:該当なし

1.運営		総合評価 B	
項目	評価項目	評価	概要
地域貢献事業		評価	
法人	(1)地域活性化のための支援活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の居場所づくり ・コロナ禍での地域住民への支援活動の具体的取組 *様々な業種と連携を継続する 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のニーズ調査の結果、「人が集まれる場所があるといい」などの意見が多かった。スーパーによる移動販売が始まったので、そこに集まった住民がゆっくり話せるような場を作れるようにしていきたい。 ・コロナが5類になったことで健康体操(S型含む)も以前のように行えるので、こども園または公民館などに行けば住民同士が集い会話が楽しめる、そんな場所になってほしい。
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5類に移行してからは徐々に住民が集える場として従来の健康体操を開催したり、移動販売も定着してきている。寄席の開催なども地域の方が楽しめるよい機会だったと感じる。今後も地域の方が参加できる様々なイベントを期待している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域各団体への専門的支援 *民生委員、包括支援センターとの連携を図り高齢者の困りごとを明確にする ・S型デイサービスやシニアサポーターの育成を支援する 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉推進協議会や郷土をよくする会など、地域の各団体の事務局として支援した。各所から求められることが多くなってきたので、それぞれが団体として自立に向くような方向を考えていきたい。 ・地域の中でシニアサポーターが活躍できるよう支援してきたが、まだ関係団体の支援がなくては成り立たない部分が多い。今後はシニアサポーターが中心となり計画・実施できるように育成を継続していく。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体を繋げたりサポートしてきていることは評価できる。今後は団体それぞれがもっと力を発揮できるようサポートが課題。 ・地域、包括支援センター、保健師など各所との連携は今後も密接にしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との協力活動 各小中学校・保健センター・地域包括支援センター・警察等 ・災害に対する避難について地域の実情に応じた対策を講じるために自主防災組織と検討会を開く 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・賤機北小学校で開催された防災教育推進のための連絡会議に出席。災害時に必要であれば貯水槽の水を使用するため、ある場所の確認を共有した。実際の災害を予測し、指定避難場所での運営とこども園の一時避難場所の運営、互いに共有しあい助け合えるような関わりを深めていく。 ・職員全体で、備蓄品の確認をする。 ・災害が起きた場合の業務継続計画を作成中。職員一人一人が状況を判断し的確に役割を担えるようにしていきたい。
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・当施設を一時避難場所として活用していただけるよう広く地域住民に周知し、地域の自主防災会と連携を図って災害に備えてほしい。 ・業務継続計画のもと、関係団体と協力的体制を整え、できる限りの業務を稼働できるようにしてくれるのは利用者家族にとって助かるのではないかと思います。
	(2)介護予防活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操を実施する 活動再開により安否確認や健康維持の機会を設けていく。 ・外出支援の活動を積極的に行う 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナが5類に移行したこともあり、健康体操後に食事をさせていただくことができた。久しぶりに皆さんで楽しく食事することができたことで、参加者に喜んでいただけた。 ・少しずつコロナ前のような活動ができるように前進できた。次年度は、健康体操だけでなく、地域の方々の外出支援の内容を検討し計画をしていきたい。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の健康維持のため、また安否確認のためにも心身ともに活性化できる活動を積極的に行ってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙による啓蒙活動 *広報紙の内容を法人活動の広報ではなく、健康に関する豆知識を掲載する 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康体操などの開催について、事前にチラシを配布したほうが地域の方々の参加意欲が高まり、参加者数が増えた。今後も回覧とともにチラシの配布をしていく。 ・インスタグラムでの広報活動は定着してきた。見ていただくための工夫もできた。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、紙面の回覧や直接お電話でのお誘いなどが分かりやすく、また「いってみよう」という意欲がわくのではないかと思います。

保育の充実		評価	
こ ど も 園	<ul style="list-style-type: none"> ・環境設定 自然に対する「なぜ」「どうして？」を引き出す環境を整える *科学的発見や感動ができることも *試行錯誤するための時間と空間の保証 *ケース検討による発達理解と環境設定についての情報共有 ・発達状況や季節に応じた環境を意識する 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を引くような手作り玩具を整えた。それぞれのコーナーも遊びに没頭できるような配置に心がけた。 ・子ども達にどんなことに気付いてほしいか、どんな体験をさせたいかが不明瞭な部分があったため、子どもが「え?」「何?」と自ら関わりたくなるような仕掛ける環境を作り出していくのは少し難しかった。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育を参観してみて、様々な子どもがいて、その子にあった関わり方があり保育の難しさが伝わってきた。特徴がある子どもさんを周りの子どもたちはどのように、どんな気持ちで接しているのか気になったが、保育者から、子どもたちは自然とその子を受け入れていると聞き安心するとともに、同じように保育している環境は大切だと感じた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育 目指す姿を具体化することで保育者のかかわり方を明確にする こどもの姿 *夢中で遊ぶ子 *好きがたくさんある子 *自己主張ばかりでなく人の話を聞いて理解しようとする子 異年齢での活動のねらいを職員間で共有 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や活動を通して年長児の考える、工夫する、協力するなどの姿を引き出し、取り組むことができた。 ・全体的に「目指す姿を具体化する」ことはできたが、それに向けての支援・指導の徹底が保育者間の意識統一が難しく個人レベルだった。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもが自分の思いを伝え、相手の意見も聞き、うまく話し合いができていく姿を見て、協力すること（社会性）が育まれていると感じる。 ・子どもに寄り添った保育は見受けられるが、子どもの発想をひきだすような「きっかけづくり」がもう少しあったらよかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育 *職員動態を明確化することで保育の充実を図る（担当の役割・他職員との連携を意識する姿勢） *子どもの姿 安心してあそぶ子 よく食べ、よく笑う子 	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児は年間の中で身近な野菜を育て（世話や観察）収穫体験をしたり、その野菜を使っただのクッキング体験をするなど、様々な体験をすることで日々の充実を図ることができた。 ・配慮が必要な子どもや発達の著しい時期である乳児期の保育を、少しでも子どもたちの満足できる空間・環境が提供できるよう外部講師を招いて年間通し研修を受け、そのたびに検討・改善を繰り返し保育することができた。
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子供たちが保育者の周りで安心して遊んでいる。また自分の言い分を主張して泣いたり、怒ったり、甘えたりと子どもが無条件で保育者に感情を表している姿は寄り添う保育の成果だと思う。 ・子どもの発達にあった保育の工夫を聞くことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・食育 調理職員による食育の時間が定着してきた。クッキング体験とともに子どもたちは食への関心が深まっている。試行錯誤しながら学んでいくクッキング形式へ移行する。 子どもの姿 積極的に関わろうとする子 食に対する関心の強い子 	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で食育活動に取り組んだので、子ども達の理解が深まった。 ・コロナが5類に移行したとはいえ、衛生面・感染対策には慎重に取り組んだ。クッキングが中止になることもあったが、食育指導の中で子どもたちが理解しやすい方法としての体験は十分にできた。
		関係者評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキングする子どもの様子を実際に見ることはなかったが、映像や写真を見ることで子どもたちの嬉しそうな表情を読むことができる。また映像からは子どもが積極的に行動している様子もわかった。 ・保護者との連絡ノートからクッキングや野菜収穫等の子どもたちの活き活きとした楽しそうな姿がうかがえる。また家族の喜びも伝わってくる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携をはかる *小学生と園児がふれあう機会 *入学への不安を軽減する *教育課程について小学校教員との相互理解を深める ・法人役員の保育への理解 *公開保育への参加 *園行事への参加 	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業と公開保育を行うことで幼児期の保育と小学校での授業の在り方の相違点や大切に行っていることの共通性などを互いに、学び合うことができた。 ・今年度より絵本の読み聞かせボランティアで保育教諭が小学校に出向き読み聞かせを行ったり、小学生の招待で学校に行き、低学年と触れ合う機会を持つことができた。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが就学したあと、座学が時間的に難しかったり、様々な問題があると聞いている。だが、ここでは、地域の小学校と連携を図り就学への不安軽減など円滑に環境の変化に順応できるような活動がされていると聞き安心した。

項目	評価項目	評価	概要
地域へ向けての支援活動		評価	
支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> * コロナ禍で中止となったイベント等の再開 * 出産後家庭訪問 * いつでも利用者に対応できる職員動態 学童保育の充実 <ul style="list-style-type: none"> * 学習支援 * 体験活動のねらい 	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> コロナが5類になったことで様々な規制が緩和し、健康体操をはじめ、住民が楽しめる特別なイベントを計画・実施することができた。(3月寄席予定) 学童保育の学習支援については、個々への丁寧なかかわりはできたが、全体的に継続的かつ計画的な取り組みには至らなかった。 こども園での会議のため支援センターを閉鎖する時間帯があった。職員動態を検討し、できるだけ閉鎖時間を作らないようにしていく。 出産後家庭訪問はもう少しアンテナを高くし、様々なご家庭の育児支援をしていく。
		関係者評価 B	<ul style="list-style-type: none"> 久しぶりに寄席の開催ができてよかった。 新たな積極的な活動の立案と、充実を図り、より利用者にとって使いやすく、安心して相談できる居場所となるようにしてほしい。

活動の定着		評価	
デイサービスセンター	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の主体性を尊重した活動 デイリーを見直し、利用者の身体等状態により個別活動を取り入れる 集団から個への職員動態の検討 	自己評価 B	<p>散歩や機能訓練、読書・製作など集団ではなく個々や小グループで取り組めるようになってきた。職員が充足し、利用者一人一人の希望に合わせた職員のサポートや利用者が選択して活動できるような職員動態になってきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちとの交流 目標としている日常的なふれあいを行っていく。その為に各部で活動内容を共有し職員動態に反映させる。 	自己評価 B	<p>コロナ5類移行後、幼児室での製作やテーブルゲームなど、午前中はできるだけダイルムから出て子供たちと活動できるように促していたが、インフルエンザやコロナなど感染症が出るたびに2~3週間の隔離活動となるため、利用者への意識付けはあまりできていない。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による高齢者特質の研修 ICTを活用した業務の省略可 	自己評価 B	<p>今年度は外部講師による、職員のモチベーション向上をメインに研修を行った。普段部門間でつながりが薄い職員とも協力して活動することができた。</p> <p>昨年導入したタブレットや記録アプリにも慣れてきたため、単純な記録のみではなく計画書や評価などもタブレットに連動したいという要望も出てきた。来年度は、要望にあるような機能も充実した記録ソフトも検討していきたい。</p>
	関係者評価 B	<p>コロナ5類移行後、園児とのふれあいや利用者の主体性を尊重した活動が少しずつできてきていることは評価できる。今後は、活動を定着させるとともに、法人が目標としている園児と利用者の共生をさらに深めていって欲しい。</p>	

職員の充実		評価	
法人職員	<ul style="list-style-type: none"> 複合施設としての研修の充実 	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な働き方をする職員がいる中で、コンプライアンスの周知と共有が必要だと感じ研修を行った。他にも防災についても実際のことを考え、避難地をイメージした研修を行った。 今回行った防災研修を含め、業務改善計画に活かしていく。 「人権擁護のためのセルフチェック」の実施と、意図した保育なのかどうか他職員と意見を共有しながら保育の振り返りを行った。 配慮の必要な子どもの行動と保護者との間での問題があったことで、職員が疲労困憊してしまい働く意欲が低迷した様子があった。午睡時の補助等を総務が行い休憩を幼児部職員と一緒に取ることで保育について話し合う時間やノンコンタクトタイムを実施した。一時期だけであったが成果はあった。保育教諭として働くための意識を高める研修を実施していきたい
	<ul style="list-style-type: none"> 業務省力化への取り組み 業務の効率化を図る 職員の食事休憩 ノンコンタクトタイム 	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> 業務省力化を図り、行事の有無の見直しと計画書・報告書の作成のし方等を検討見直しを図った。 持ち帰り仕事がなく就業時間内に効率よく業務に取り組めるよう、ICTの導入を検討。 他部署の職員が園児の保育補助に入ることで、乳幼児の部会を就業時間内に行うことができていた。ただ、他職員の援助を受けて時間をもらっているという意識が薄いと感ずる。 食事休憩・ノンコンタクトタイムは各部で職員の動態を組み行うことができていく。ノンコンタクトタイムを利用し、職員間で振り返りや情報交換・共有を行えるようになるとより有意義な時間となると感じる。
	関係者評価 B	<p>施設全体で業務省力化に取り組み、働きやすい職場づくりを進めていることは評価できる。実践している個々の職員の意識も向上し、チーム力が高まることを期待したい。</p>	

2.経営		総合評価 B	
法人全体	・ デイサービス事業の安定	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数は一定の数値で安定してきた。収入も予算より増額となっているので経済的運営は安定した。 職員の離職が2名あったが、看護師と介護士を各1名雇用することができた。
	・ 園児の確保	自己評価 C	<ul style="list-style-type: none"> 園児獲得に向けてSNSを活用し広報してきた。広い範囲で閲覧されたが集客につながっていない。 園より南側へ通園バスを運行している。走行しているのを見て、入所を希望してこられる家庭もあった。来年度はバスを新しくし、更に目を引く形で集客に結び付けたい。
	・ 職員処遇改善	自己評価 B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年同様キャリアアップと賃金改善を組み合わせ、職員の意識を向上させようと取り組んできたが、なかなか意識向上まで至っていない。就業規則の見直しを図り、次年度には達成できるようにしたい。
	関係者評価 B		<ul style="list-style-type: none"> デイサービスの収益が上がっていることは安定した経営ができるが、こども園のほうは園児数の減少による減収は防ぎたい。来年度はバスを新しく購入してそれを南方面へ走行させることで集客に結び付けるといことなので期待したい。 処遇改善に前向きに取り組む姿勢は評価できるが、無理のない実行計画を立てて欲しい。

3.評価及び改善		総合評価 B	
法人全体	・ 要望調査と改善	自己評価 A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に園の方針や職員とのコミュニケーション等についてアンケートを実施した。家族の要望を述べる機会としてこの調査は好評だった。
	・ 職員自己評価と園の自己評価		<ul style="list-style-type: none"> 職員の経験年数にあった職務内容について、さらに自身の目標がどのように達成できたか、一人一人の職員が日々の保育や役割を振り返り次年度への目標設定を行った。
	・ 苦情に対する対応と改善		<ul style="list-style-type: none"> 苦情については随時対応し、内容をホームページで公表してきた。 理事会にて報告を行い、また必要な場合は地域通信を発行してきた。
	関係者評価 B		<ul style="list-style-type: none"> 職員の自己評価や苦情対応などは誠実に行っていると思う。 保護者へのアンケート調査の結果をしっかりと活動に反映してほしい